

参加各位

「馬場小室山遺跡フォーラム」第90回ワークショップ

【復興の原動力！パブリック・アーケオロジー2018】

馬場小室山遺跡とまちづくり環境の「かわり」から、「山田湾文化」の復興パブリック・アーケオロジーへ

＜馬場小室山遺跡研究の新展開—縄文塚(「環提土塚」集落)の終焉から地域文化の解体にみる広域連動の解明—＞
知識・経験・思考・領域等にみられる現代的限界(建て前の×や+)からの知的解放(本音の÷や-)を目指して活動します！

新展開1 (ムロ1) ～ (ムロ10) は以前のレ ジュメ参照	「ムロさま」の 「限界領域」打破 (墓場の公共性にみ る墓式と葬式、及び 「人骨集積」の真相)	馬場小室山遺跡「第51号土壇」から展望する縄文時代の葬墓式と「土器社会論」—「ムロさま」の 「累積型改新土坑墓」と「積葬墓」から探る「追埋設型土器棺集積墓」への途— (ムロ10)「再帰型再葬墓」の風習と巨大「再葬祭場」の出現【『利根川』40】 (ムロ11)山田町浜川目沢田Ⅰ遺跡における「大洞C1式」の「土器集積の風習」 (ムロ12)「人骨集積」から「土器集積の風習」(祭式と葬式の統合)へ【『古代』142】 (ムロ13 予告)「土器集積の風習」(祭式と葬式の統合)から「再葬壺棺墓」へ
新展開2 (オム1) ～ (オム5) は以前のレ ジュメ参照	「オムちゃん」と 「ムロさま」との 「限界知識」打破	土偶と土面／顔面付土版／人面文土器等の関係、そして容器形土偶／顔壺へ (オム6)大宮台地における人面文土器の類例追加:地獄田遺蹟2例、小林八束Ⅰ遺蹟1例 (オム7)「祭式土偶」から「葬式土偶」(祭式と葬式の統合)へ【『利根川』40等】 (オム8 予告)「髑髏信仰」は「ムロさま」から容器形土偶や顔壺の土坑墓へ 【番外1】富山県の「オムちゃん」 【番外2】青森県の波状口縁頂部の内面に顔面を装飾する縄文時代後期後葉土器
新展開3 (シオ1) ～ (シオ3) は以前のレ ジュメ参照	「シオ(塩)もん」の 「限界経験」打破 縄文時代の製塩土 器は「探鹹・せん ごう土器」が真相！ 固形塩の物流では なく、「大形魚塩蔵 品」・「汽水系塩 煮品」に留まらず、 濃縮海水を内陸 で希釈する「淡水 魚(含む特産ウナ ギ)塩煮」の普及 か？	「製塩土器」の確立から製塩遺跡の操業へ、爆発的普及の晩期社会と「定住制」の定着 (シオ4)下布田遺跡の「製塩土器」在地性は古鬼怒湾型変遷との乖離！／枯れたアマモを特 定の場所に集めて乾燥させる「塩草場」の存在、及び天日と地熱(熱砂)利用の探 鹹・せんごう工程に相応しい「製塩土器」鉢形態の確立 (シオ5)宇都宮市刈沼遺跡からは寺野東遺跡よりも多数の「製塩土器」が検出し、在地で淡水 魚の「塩煮」が浮上。鬼怒川流域の口縁部形態は下布田遺跡(板状工具＋ナデ調 整)とは大きく異なり、古鬼怒湾型変遷の1系列である口縁部水平ヘラカットが定着 (シオ6)三陸北部における「製塩土器」の年代と系統(1)久慈市大芦Ⅰ遺跡の長胴深鉢形態 と僅かな出土点数に注目した「探鹹・せんごう土器」の提唱 (シオ7)六十軒遺跡の「製塩土器」二者(古鬼怒湾ケズリ系列VS無文ナデ系列)の意義 【『利根川』40】 (シオ8)古鬼怒湾で後期から発達するウナギのブツ切りによる「ウナギ鍋」は塩煮／「探鹹・ せんごう土器」の定着に果たす古鬼怒湾ウナギ塩煮の役割に注目！ (シオ9)シカやサルが舐めていた「縄文山塩」の発見と「山塩煮」の縄文鍋 (シオ10)「微小貝類から想定される「葦灰」製塩の可能性」？アマモは「藻灰」×「草灰」○
新展開4	「タマきみ(君)」の 「限界思考」打破	ヒスイ製勾玉・小玉の晩期流通(関東各地域拠点でも製作)と弥生時代中期中葉「再葬壺棺 墓」への流通実態(上越周辺北信經由)解明 (タマ1)熊谷市飯塚南遺跡の土坑墓出土ヒスイ製勾玉と飯塚遺跡群 (タマ2)長野県坂城町保地遺跡の抜歯人骨とヒスイ製垂飾品の年代【『利根川』39】

1.【地域とパブリック・アーケオロジーの底力】：各地域における自然の恵みと基層文化の形成を考えよう！

1-1. 井出政男個展「…遙かな縄文土器…」：案内状の紹介文から

・岩殿丘陵(鳩山町)の新第三紀層の凝灰岩が風化した白色粘土で制作した土器は、野焼きによって強く
焼き締まることが多い。しかし、繰り返し煮炊きに使用すると、意外にも脆いという状況が見えてきた。

1-2. 第6回「山田湾まるごとスクール」の企画：山田湾に学ぶ復興の原点は郷土を誇れる心！

(1)7/27(金)ー7/29(日)の現地下見行：事務局4名で実施★大槌町役場の最後の姿も確認！

・台風の影響で小雨模様の中、訪問予定地の下見を実施。山田湾は霧靄で対岸が見えず、残念！

夜行バスの利用で寝不足に見舞われましたが、何とか以下の所期の目的は達成できました。

(2)大浦の方々との交流テーマ

- ・山田湾の漁業について自由にお話し下さい。事務局は『山田町史 上巻』のpp. 544－547を準備方。第87回ワークショップ(2018-4-1)で配布済みです。実際の漁についてもお話し頂けます。
- ・学術的な課題は、「山田湾の水産考古学」(山田湾における水産資源の現在と先史・古代)として検討を進めます。主なテーマは、①トド・イルカなどの海獣猟、②山内清男の「サケ・マス論」の真相、③コンブ漁 となります。

(3)「川端弘行コレクション」のパブリック・アーケオロジー：★北浜老人クラブも「山田湾をのぞんだ縄文むら」

- ・「川端弘行コレクション」の畠中遺蹟整理を通した学びを進めます。最近報告されました浜川目沢田Ⅰ遺跡は北浜老人クラブの近くの大沢地区に所在し、しかも「川端弘行コレクション」と同じ時期で、山田湾の湾央部における北と南の後晩期拠点集落になります。両地区共通のパブリック・アーケオロジーを企画します。但し、「土器型式」上では隆替の違いが微妙に見られますので、集落としての同時存在の在り方を検討していきます。山田町が避難道造成工事に伴い発掘調査しました畠中遺跡の報告書が来年度に刊行予定ですので、大きなお楽しみができました。
- ・山田史談会とのパブリック・アーケオロジーは7/28(土)に整理を進めた「川端弘行コレクション」の口縁部破片を見て、浜川目沢田Ⅰ遺跡の完形土器のどの部分に比定されるのか、みんなで推理したいと思います。

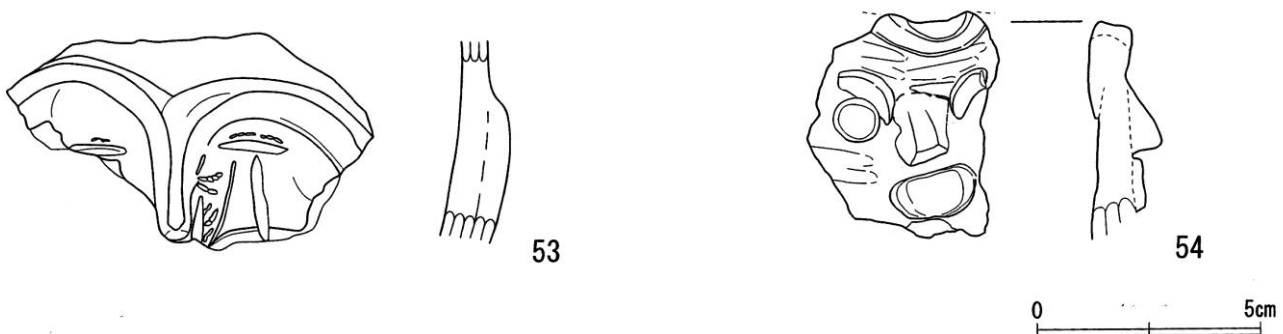
(4)「山田湾の蝦夷考古学」の動向(2)：房の沢古墳群を形成した蝦夷社会のパブリック・アーケオロジー

- ・五十嵐聡江(2018.7)「陸中・房の沢古墳群と山田湾の古代社会」『古代』第142号について、筆者の視点を理解します。

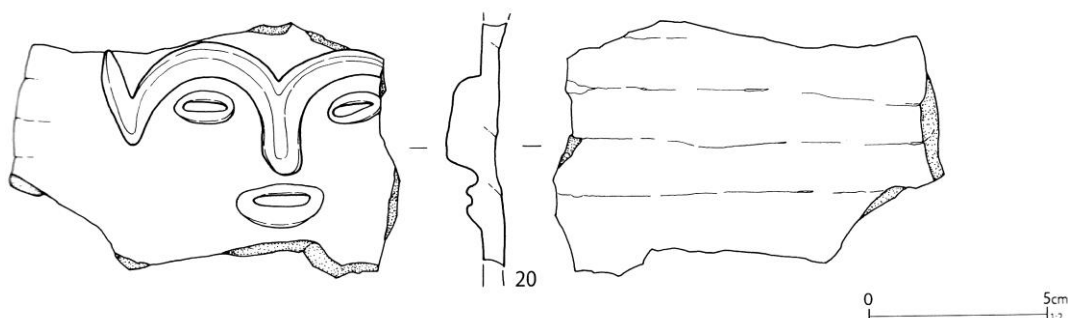
要旨 房の沢古墳群は岩手県下閉伊郡山田町山田に所在する「末期古墳」である。本稿では、房の沢古墳群の歴史的展開と変動を形成する群構成、地域社会としての特徴を検討した。その結果、房の沢古墳群には、隣接する沢田Ⅰ遺跡の集落の盛行期と移転期に同期した変動が認められ、群構成から家族など系統の近い関係がある程度纏まって墓域を形成していたと考えられる。副葬品の組成や埋納方法からは、造営者を内陸からの移住者と想定し、盛行期には内陸と海道の双方との交流が活発化する様子がみられ、さらに古墳群は出自や職掌の異なる複数の集団で共有されていた可能性も指摘した。また、三陸に位置する長根古墳群との比較からは、同じ墓制を共有しながらも副葬品からは差異が認められ、これは山田湾と宮古湾の蝦夷集団の系譜の違いと考察し、山田湾の古代社会解明にむけての足掛かりを得ることができた。

2.【「ムロさま」の話題】大宮台地における人面文土器の新例について：「渡良瀬川文化」、恐るべし

(1)久喜市地獄田遺跡の人面文土器2例：『久喜市埋蔵文化財調査報告書 第1集』(2013)



(2)久喜市小林八束1遺跡の人面文土器1例：『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第442集』(2018)





3. 【「シオ(塩)もん」の話題】「微小貝類から想定される「葦灰」製塩の可能性」：【動物考古学会HPから転載】

黒住耐二(千葉県立中央博物館)

先史時代の土器製塩に関して、最近、主にアマモ等の海草に付着する葉上性の“微小貝類”であるウズマキゴカイ類(環形動物)が焼けた状態で集中することから、「藻灰」という形で、製塩土器の無い時代から土器製塩に用いられてきたことが明らかにされつつある(例えば阿部2017等)。この一連の研究は、古代の「藻塩焼き」を提示した例を縄文時代にまでさかのぼらせ、併せてその具体的な利用方法を「藻灰」という形で明示し、さらに海草付着珪藻を同時に検出することで検証した重要な研究である。演者は、ウズマキゴカイは未検出であったが、焼けた葉上性微小巻貝が縄文期の貝塚堆積物から少量ではあるが得られることから、“製塩に関連するものではないか”と考えてきたが、検証および具体的な利用方法を示せなかった。

一方で、葉上性微小巻貝と共に、焼けたカワザンショウガイ類やカワグチツボという海産微小巻貝が得られることも多く、演者は、これらも製塩に関連したものではないかと想定している。その由来は「枯死した葦(アシ)を利用したもの」であり、藻灰と類似した「葦灰」と捉えている。やはり、検証は今後の課題である。

この葦灰は早ければ、縄文時代前期末から利用されており、藻灰と併用される例もあると考えている。現時点では、東北地方から関東地方までで確認され、中世の利用例も存在している可能性もある。

★塩づくりがだんだんと川に近づいています?? 因みにアマモは海草なので「藻灰」ではなく、「葦灰」です！

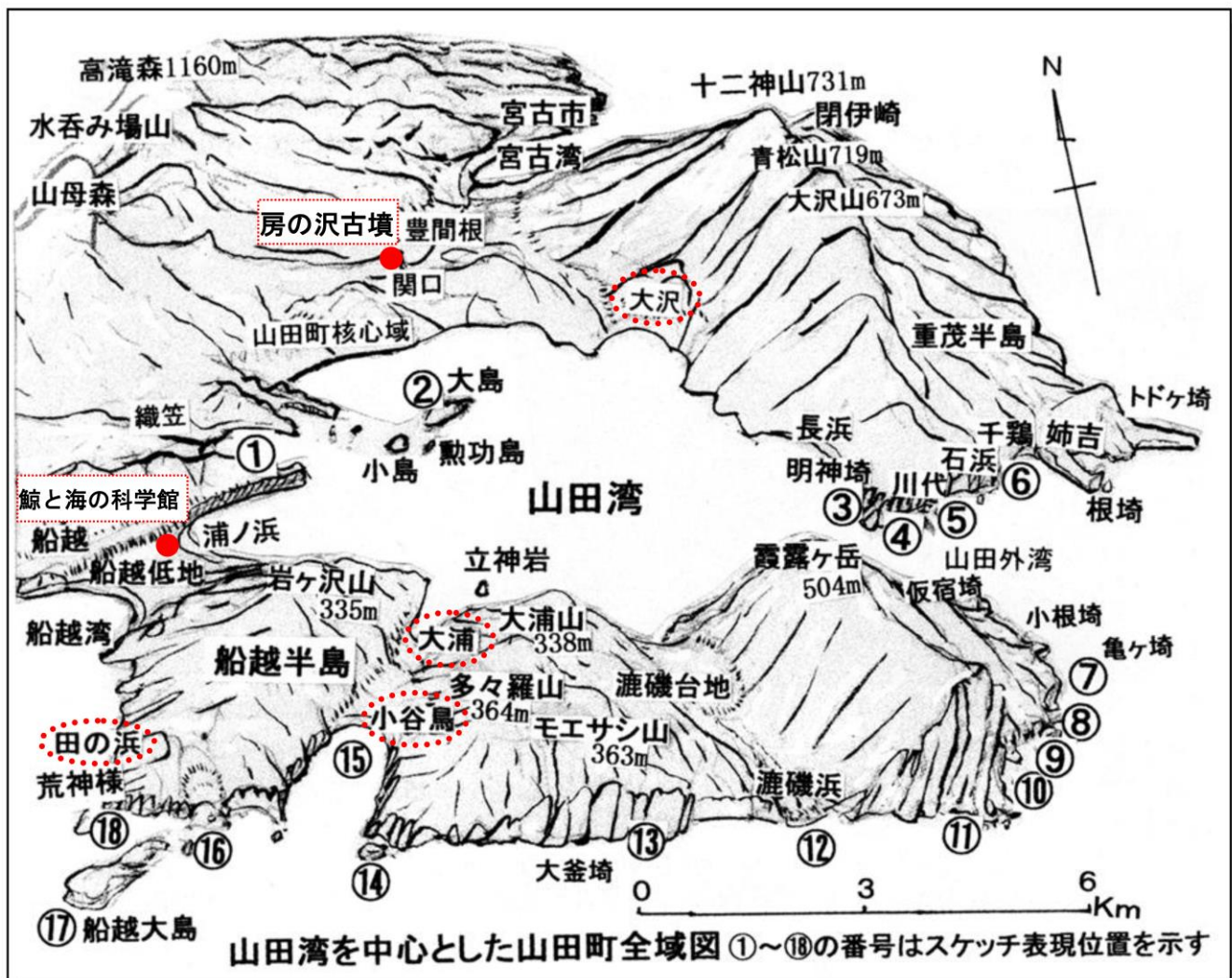
4. 【その他情報交換など】：自由な意見交換とワイン・アーケオロジー

4-1. 今後の日程

- ・9/1(土)－9/3(月) : 第6回「山田湾まるごとスクール」開校(「山田湾をのぞんだ縄文むら」)
- ・10/14(日) : 第91回ワークショップ(土器型式ワークショップなど)

4-2. その他

以 上



図：小岩清水先生の図に加筆